

不定愁訴

不定愁訴ふじょうしゆとは、医学的に説明できない患者さんの訴えのことだ。どうやら重い病気はなさそう。だが、患者さんは異常を感じてずっと悩んでいる。

62歳のK子さん。不整脈で、ある病院に通院中だ。この頃、体の力が抜けたような感じが続く。後ろ頭がもよもよする。ある時、病院へ駆け込んだ。が、「心臓の問題ではない。かかりつけのワッシー先生ワッシーせんせいに診てもらえ」と言われたという。

で、その症状は、いつもと同じ季節の変わり目わり目に起きる。たいした病気ではなさそうだ。でも彼女は、MRI（磁気共鳴画像装置）の検査をしないと帰ってくれない。もちろん、脳には異常はない。

が、「では、なぜ症状が？」と簡単ではない。よく分からないが、「季節の変わり目で、自律神経の不調が原因かも」と答える。やっと、Kさんは納得してくれた。

78歳のA子さん。2ヶ月前から体がぶらぶらつく。だんだんひどくなるという。いつも頭が重くて、熱っぽい。顔があちこちしび痺れ

る。よく眠れないなどの訴えは多彩だ。

「頭の病気ではないか？」と不安が強い。

だが、加齢のせいでは忘れっぽく、少し鬱うつっばいだけである。もちろん、頭のMRI検査をした。でも、脳には症状を説明できる異常はない。どの症状も、原因となる異常がみつからない。つまりは、不定愁訴である。

もちろん、脳神経内科や耳鼻科でも診てもらった。心療内科にも受診歴がある。でも、どうしても訴えは軽くならないのだ。ワッシーも、もう刀折れ矢尽きた状態だ。

そうだ。症状があるのだから、原因がないはずはない。なにかの病気の始まりも、否定はできない。脳や神経系が過敏になり過ぎ、脳が必要以上に異常を感じてしまうからという説もある。が、どうだか？ポックリポックリ医者は、不定愁訴に振り回されて悩めるばかりだ。

（石黒修三「いしへろく」ニック・脳神経外科専門医…11/3北國新聞掲載）